料金と課金のシステム

Rates and billing systems

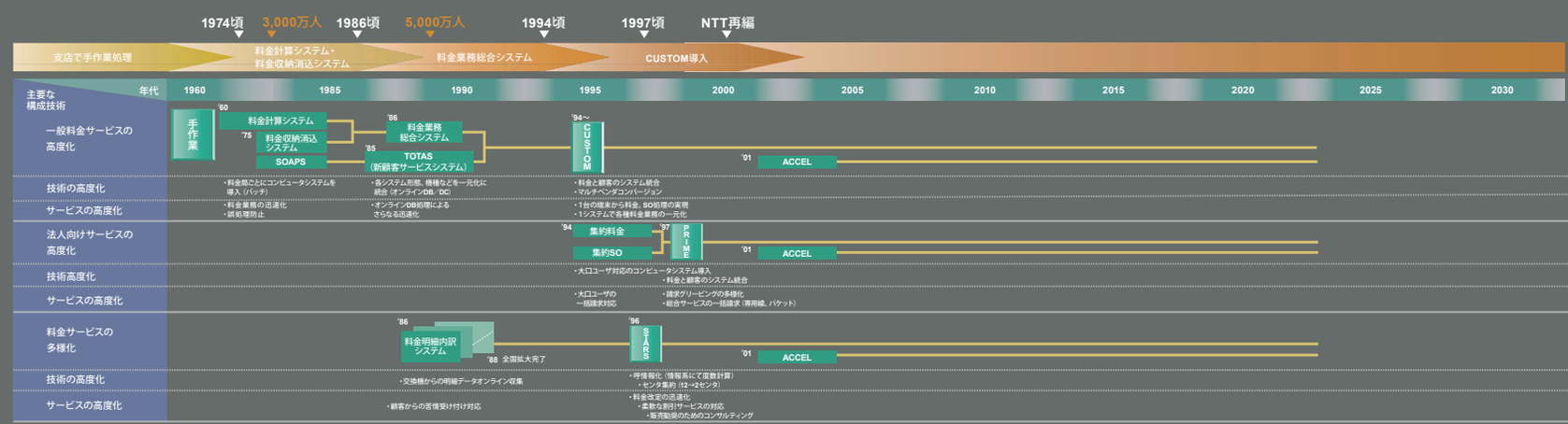
急増する顧客に対応するために1960年代の初めに電算処理化するなど、
料金計算関連の機械化をいち早く進めた。料金計算と収納業務の膨大な事務量を処理するために、
料金関連業務のシステム化を個別に充実させていった。
1994年のCUSTOM完成によって、これらのシステムは統合され、業務の合理化と確実な処理を実現した。
また、料金計算の元となる通信やサービスの使用量のカウントを行う課金システムの進歩が、
正確な料金把握や新サービスへのフレキシブルな料金対応を可能としている。

料金関連システムの進歩と顧客対応

Progress of billing systems and customer services

1960年代は、各地の料金局ごとに業務の電算化を進め、迅速で正確な計算が行えるようになったものの、課金データ収集は手作業で、トラブル対応も十分でなかった。
1980年代中頃には、オンラインでの課金データ収集が可能になり、関連システム間の統合が図られ、正確な処理と料金明細書対応が可能となるなど顧客対応も充実してきた。
1994年にCUSTOMが導入されると、すべての業務が1つの端末で処理できるようになり、顧客サービスがさらに向上した。

料金システムの変遷

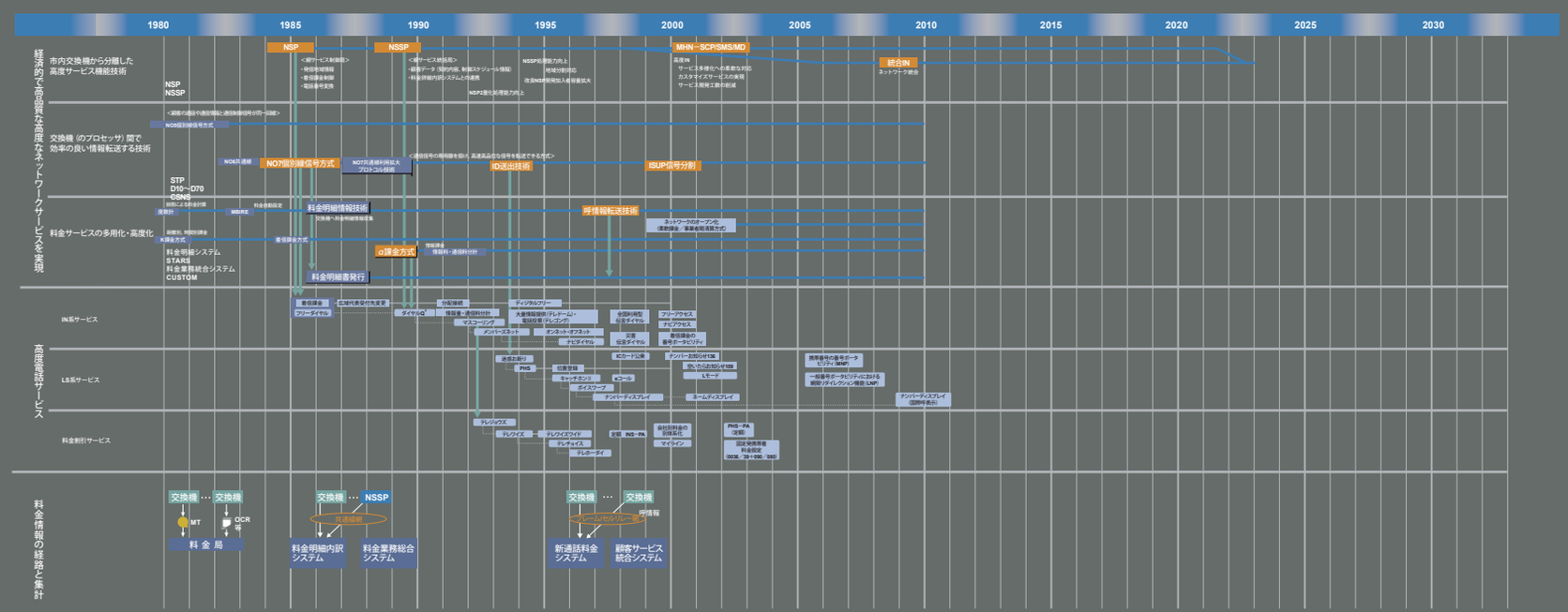


ネットワークの進化と課金システムの進歩

Evolution of networks and progress of billing systems

ネットワークの進化がもたらした課金システムの進歩は、さまざまな高度なサービスに対応する自由度にとんだ料金請求を可能にしている。

課金システムの進歩：

1) 電子交換機導入以降の<コンピュータデータ>としての課金情報の収集。
2) 網サービス制御ノード（NSP）および網サービス管理ノード（NSSP）の導入と共通線信号網による制御。
   サービスの実行と情報管理が分離され、高度な新サービスとそれに対応した料金計算が可能になった。
3) 呼情報方式
   交換機、NSP、料金明細内訳センターに散在していた課金機能を、新料金処理システムに集約し、交換機からネットワーク上の動作履歴情報（呼情報）を送出して料金計算を行う方式。これにより迅速で高度な料金対応が可能となった。

いろいろな電気通信サービスの実現